

当面のスローガン

- 本年こそ「人権侵害救済法」を制定させよう!
- 狭山再審闘争の勝利をかちとろう!
- 続発する差別事件の糾弾を徹底しよう!



発行所
解放新聞和歌山支局

〒640-8314
和歌山市神前 405-3
TEL 073-473-2301
FAX 073-473-2302

発行責任者
藤本 哲史

飛躍の年にしよう

県連旗びらき

県連旗びらきを1月8日、ダイワロイネットホテル和歌山でひらき、県連執行委員、県委員ら120人が新型コロナウイルス感染防止対策を實行して参加した。

藤本哲史・執行委員長から、新しい年をむかえたが、昨年1年はさまざまなかかった。今年一年は、飛躍する年にしたいと思う。

さて、昨年末に瀧口秀光・県連顧問兼企業連理事長が逝去した。多くの弔意をいただいたことに感謝申し上げる。瀧口顧問は、1974年県連再建時の中心メンバーであり、運動の屋台骨でもあった。県連としても瀧口顧問の意思をうけつぎ、今後とも差別をな



今年の運動についてしめす藤本執行委員長

くすとりくみを強力にすすめていく。「部落差別解消推進条例」(以下「県条例」)にかかわっては、昨年のあいさつで、条例がまだ制定されていないことへの問いに、知事から制定への決意を込めたあいさつをいただいた。そういったなか、昨年3月に「県条例」が制定され、12月にはプロバイダーへの責任条項が追加された。県の多大なとりくみに敬意を払っていきたく考えている。国の状況は「部落差別解消推進法」が制定されて5年目を迎えるが、具体的な施策がともなっていない。そういう意味で、以前から「人権侵害救済法」を求めてきた。差別禁止をうたった具体的な法律を作り上げていかなければならない。今年2021年を契機にしながら法整備のために運動をよりすすめていく。

最後に、今年には衆議院選挙の年。差別をなくす議員を支持するという立場は変わっていない。これまでも県選出国會議員には、部落差別をなくす立場でとりくんでいただいている。来たる選挙には推せん・支持を表明していくので、みなさんのご協力をお願いしたいとあいさつした。

◆来賓

●国会議員

石田真敏・衆議院議員、岸本周平・衆議院議員、浮島智子・衆議院議員、門博文・衆議院議員、鶴保庸介・参議院議員、前田大輔・二階俊博衆議院議員秘書、福井康司・世耕弘成参議院議員秘書

●県市町村

仁坂吉伸・県知事、尾花正啓・和歌山市長、中芝正幸・岩出市長、三浦源吾・御坊市長、田岡実千年・新宮市長、楠義隆・湯浅町副町長、上田力也・橋本市総合政策部部長、原田武男・和歌山県参事人権局長、伊藤寿英・和歌山人権政策課長、平尾朱美・和歌山市人権同和施策課長

●県市町村議会

岸本健・和歌山県議會議長、山下直也・県議會議員自由民主党県連幹事長、長坂隆司・県議會議員県議會議改新

クラブ代表、林隆一・県議會議員、日本維新の会代表、井上直樹・和歌山市議會議長、奥山昭博・和歌山市議會議員、田畑昭二・岩出市議會議長、山本忠相・和歌山市議會議員、立憲民主党県連幹事長、山中敏生・和歌山市議會議員、国民民主党県連副幹事長

●各種団体

池田祐輔・連合和歌山会長、朴正隆・部落解放和歌山県共闘会議議長、西上宏明・和歌山同企連代表幹事、関西電力送配電(株)和歌山支社長、赤松明秀・和歌山県同宗連議長、雨貝・覚樹高野山真言宗社会人権局人権課長、和歌山県和歌山県商工会議所連合会、専務理事、野田孝雄・和歌山県商工会連合会専務理事、林勝治・和歌山県農業協同組合中央会経理課長、裏野勝也・和歌山県平和フォーラム代表、東山昭久・社会民主党和歌山県連合代表、野口道彦・一般社和歌山人権研究所理事長、加藤康夫・和歌山県職員労働組合執行委員長、長田吉文・自治労和歌山県本部執行委員長、南喜貴・日本郵政グループ労働組合和歌山連絡協議会議長、奥田匡敏・N.T.T労働組合和歌山分会分会長、朝井照貴・日教組和歌山書記長、藤井幹雄・県連顧問弁護士

●祝電

二階俊博・衆議院議員、石田真敏・衆議院議員、岸本周平・衆議院議員、門博文・衆議院議員、鶴保庸介・参議院議員、世耕弘成・参議院議員

●市町村長

平木哲朗・和歌山県市長会会長、小谷芳正・和歌山県町村会会長、青木茂二・同会事務局長、神出政巳・海南市長、平木哲朗・橋本市、望月良男・有田市、真砂充敏・田辺市長、中村慎司・紀の川市長、寺本光嘉・紀美野町長、平野嘉也・高野町長、西岡利記・広川町長、井潤誠・白浜町長、奥田誠・上富田町長、岩田勉・すみ町長、山口賢二・北山村長、田嶋勝正・串本町長

●県市町村議会

藤山将材・和歌山県自由民主党県議團会長、長坂隆司・和歌山県議會議員、谷口和樹・立憲民主党和歌山県総支部連合会代表、安達克典・田辺市議會議長、村垣正造・紀の川市議會議長、大原清明・かつらぎ町議會議長、西尾智明・白浜町議會議長、大石哲雄・上富田町議會議長、結城力・串本町議會議長

●各種団体

森田敏行・和歌山県商工会連合会会長、谷川雅彦・一般社団法人部落解放・人権研究所代表理事

●部落解放同盟

堀田光政・愛知県連合会執行委員長、西島藤彦・京都府連合会委員長、赤井隆史・大阪府連合会執行委員長、坂本三郎・兵庫県連合会委員長、川口正志・奈良県連合会執行委員長、有澤明男・高知県連合会委員長、岡田英治・広島県連合会委員長、浅原寛巳・島根県連合会執行委員長、大田逸雄・山口県連合会執行委員長代行、濱本隆司・佐賀県連合会執行委員長

●祝電

二階俊博・衆議院議員、石田真敏・衆議院議員、岸本周平・衆議院議員、門博文・衆議院議員、鶴保庸介・参議院議員、世耕弘成・参議院議員

頑健

先日、古い友人が病魔に倒れた。以前からわかっていたが、覚悟ができた。早い受診を望んだが、私がかく言える立場でもない。案の定、救急で運ばれ手術となった。問題は病院での応答だ。私たちは「家族」として過ごしてきたが、戸籍上の「家族」ではないのだ。病院側には「関係は？」と聞かれる。「友人です」と答えるしかない。そこで「家族さんか？」と聞かれる。独り身や家族と断絶するなど、人にはさまざま事情がある。果たして「家族」とはなんなのか。

先日「女性になった夫」と妻と夫の恋人」という見出しの番組を見た。その女性になった夫とは夫婦のままだ。女性になった夫の恋人は、夫婦の養子になった。理解したい関係に妻は「理屈じゃない。なんでみんな奥の奥まで繋がらないのか」という。昨今パートナーシップ証明制度が地方自治体レベルで整備されはじめた。婚姻と同等であるという制度に縛られた上のこと。東田直樹さんは、自身の著書に「命というものは、つながるものではなく、完結するもの。命は大切だが繋ぐものではなく完結するもの。命が繋ぐものであるなら、つながりなくした人はバトンを握りしめて泣くのか、途方にくれているのか。残された人はその姿を見て自身の人生を生きつづける」と記した。制度や慣行というみえない荊に絡まれば、生きづらさをどう整理すればいいのか。(A・H)